

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子ども英語教育実習 Children's English Teaching Practice		2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(選択必修(子ども英語ユニット))	英語フィールド子ども英語ユニットの科目を履修した者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
幼稚園保育英語、児童英語、子どものうたとゲームⅠ、子どものうたとゲームⅡ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
子ども英語教材ワークショップ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
堤 裕美子	講義棟3階	火曜・木曜9:00～18:00(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
英語活動の目標、理念、現状を把握し、基本的な指導法を学ぶとともに、実践の場(保育園・幼稚園・小学校)でどのように授業を展開するかを具体的に学ぶ。				
授業の目標				
①指導目標・カリキュラム・年間計画を立てることができるようにする。 ②保育園・小学校英語活動のレッスンプランを立てることができるようにする。				
授業の方法				
様々なアクティビティの目的とその有効な実施方法を学び、模擬授業を行いながら、小学校や保育園訪問といった実践の場に備え、技術を磨く。				
学習の成果(学習成果)				
①学内における授業の際は演習形式で学生の発表を中心に進めるため、プレゼンテーションすることができる。 ②教育実習として小学校や保育園で実際に園児や小学生に英語の授業を行うことによって、子ども英語ユニットの授業で学習した内容を活かすことができる。 ③指導者として素質を磨くことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の方針、進め方、評価方法等の説明)			
第2回目	第1部:概論—理論と背景 第1章:外国語教育の意義			
第3回目	第2章:小学校における英語導入の背景と現状、課題			
第4回目	第4章:言語習得論—母語の習得と第二言語習得・第6章:言語のしくみとコミュニケーション能力			
第5回目	教育実習(大栗保育園)			
第6回目	第7章:国際理解教育と英語教育・第8章:求められる教員の資質			
第7回目	教育実習(大栗保育園)			
第8回目	第9章:英語力の向上と鍛え方・第10章:英語教育全体における小学校英語教育の役割			
第9回目	教育実習(大栗保育園)			
第10回目	第10章:英語教育全体における小学校英語教育の役割			
第11回目	教育実習(大栗保育園)			
第12回目	第2部:実践—何をどう進めるか 第1章:小学校英語教育の目標の立て方			

第13回目	教育実習（大栗保育園）
第14回目	第3章：カリキュラム・年間指導計画作りのポイント・第8章：1時間の指導の組み立て方
第15回目	教育実習（大栗保育園）
第16回目	ガイダンス（大栗保育園での主導実習、佐野市教育委員会地域連携事業市内小学校訪問への心得について）
第17回目	教育実習（大栗保育園）
第18回目	教育実習（市内小学校）
第19回目	教育実習（大栗保育園）
第20回目	教育実習（市内小学校）
第21回目	教育実習（大栗保育園）
第22回目	教育実習（市内小学校）
第23回目	教育実習（大栗保育園）
第24回目	教育実習（市内小学校）
第25回目	教育実習（大栗保育園）
第26回目	教育実習（市内小学校）
第27回目	教育実習（大栗保育園）
第28回目	教育実習（市内小学校）
第29回目	教育実習（大栗保育園）
第30回目	教育実習（市内小学校）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	学内・学外において、自発的かつ前向きな態度で教育実習の準備、実践に臨み、指導者としての素質を磨こうと努力する態度を評価する。
レポート	20%	レessonプランなど、年間数回のレポート提出があり、設定された課題が満たされているかどうか評価する。
調査報告書		
小テスト		
試験	30%	教育実習の中で模擬授業を行い、子どもが分かりやすい授業展開が行えるかどうか評価する。試験時期は実習先と授業内容に応じて事前に説明、指示をする。
発表内容（態度含む）	30%	学内授業における担当箇所の発表内容について、見やすいハンドアウト、明瞭な説明を行えたかどうかなどを評価する。
その他		

教科書と参考図書

小学校英語教育の進め方―「ことばの教育」として―（成美堂） 2500円＋税

履修上の留意点・ルール

保育園や小学校訪問といった実習がありますので、佐野短期大学の代表として服装や態度に注意し、自覚を持って臨んで下さい。